

第66期通常総会

連携組織としての役割強化へ 補助金・税制事業などに関する情報発信

近畿印刷産業機材協同組合(坂本進理 理事長)は6月9日、大阪・中央区のKKRホテル大阪において第67期通常総会を開催。議案すべて原案通り承認可決された。

同協組の新年度は、連携組織としての役割を果たすべく各種施策を実施。具体的には、政府や大阪府などが実施する補助金・税制事業などに関する情報発信や説明会開催のほか、大阪印刷関連団体協議会加盟の業界他団体との連携を強化していく。新年度予算は1,688万2,000円。

総会終了後には、「東日本大震災・熊本地震から学ぶ、企業の地震BCP(実践編)について」と題し、(株)インターリスク総研大阪支店 災害・事業RMグループ マネジャー・上席コンサルタントの小島勝治氏による講演会のほか、スマートエネルギーなどに関するセミナーも併催された。

引き続き催された懇親会の席で挨拶に立った坂本理事長は、印刷業界の現状について「『ものづくり補助金』など、政府の施策によって設備投資するところもあるが、全体として見れば設備投資意欲は低い」との見方を示し、国内外ともに先行き不透明な

状況で、景気の下振れリスクが顕在化しているとの懸念を示した。

また、松下幸之助氏の話を用いし、次のように述べた。

「松下幸之助氏が若い頃、船に乗っていてよめき、海に落ちてしまった。泳げないのでアップアップしていたら、船が気づいて戻ってきてくれ助かった。その時、幸之助さんは、自分はなんと運が強いのだろうと思ったそうだ。船が戻ってきてくれなかったら、泳げない自分は溺れ死んでいた。また、落ちたのが春の海だったからよかった。これが冬の海だったら船が戻る前に凍え死んでいた。自分は本当に運が強い。この運の強さで自分はこれからの人生のいかなる困難も乗り越えていける。そう確信したそうである。いかなる不運、不幸にも腐ったり自棄になったりしない。むしろそこに光を見出していく。運命を発展、繁栄させていくための大切なヒントがこのエピソードにはあるのではないか」

この話を受け、最後に坂本理事長は、「本日の講演会でも学んだように、何事も災害や事故が起こらないように、また、起こった時のために準備が必要だが、その時、どの



▲坂本理事長

ようにモチベーションを維持していくかが大事。とくに、企業では経営者や管理職が気を落としていては、部下のモチベーションは下がるしかない。ポジティブに考えることを習慣にしておくことが、BCP(事業継続計画)においても大事ではないか」との考えを語った。



▲BCP、スマートエネルギーを学ぶ

